

昭和医科大学の学生が卒業時に有している医療人としての能力（コンピテンシー）

医系総合大学である昭和医科大学は建学の精神である「至誠一貫」のもと、「真心と情熱をもって医療の発展と人類の健康増進と福祉に寄与する人材の育成」を教育の目標としている。全学生は卒業時に以下の7つのコンピテンシーを身に付けていることが期待される。

1.プロフェッショナリズム

真心と情熱をもって患者中心の医療を提供し、健康を増進する責任感と態度を有し、生命の尊厳、守秘義務、医療安全、患者の権利について、法と医療倫理を遵守するとともに、医療を担う後進の育成に寄与する。

2.コミュニケーション

患者や家族、地域住民、医療関係者と適切な言葉や態度によるコミュニケーションを介して、良好な人間関係を構築するとともに、必要な情報を収集・提供できる。

3.チーム医療

多職種間の相互理解と連携・協力を基盤として、情報を共有し自らの専門性を発揮し、患者中心の医療に貢献する。

4.専門的実践能力

統合された知識、基本的技能、適切な態度を身に付け、患者・家族の心理・社会的な背景を把握するとともに、科学的根拠に基づいた医療を実践し評価する。

5.社会的貢献

医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、地域社会における保健・医療・福祉・行政ならびに社会奉仕等にかかわる活動を通して、国民の健康回復、維持、向上および疾病の予防に貢献する。

6.自己研鑽

生涯学習者であることを自覚し、最新の知識や技能、必要な情報を国際的視野にたって獲得する意欲と態度を有し、常に自己を振り返るとともに、他者からの評価も受け入れ、至誠一貫の精神と向上心を維持する。

7.アイデンティティー

昭和医科大学の伝統を重んじ、その名誉を高めるために全力を尽くす。